



2月初めの大雪の影響で日本海側では記録的な大雪となり、福井県では1,400台もの車が立ち往生しました。気温も上がらず比較的温暖な和歌山でも寒さに震えあがる日が続き外に出るのもおっくうでしたが、寒波が過ぎてからは少し暖かくなりました。しかし長期予報では、もう少し気温の低い日が続きそうで、本格的に暖かさを感じるのは来月中旬以降でしょうね。

意識改革



私が田村病院でお世話になってからもうずいぶんとなります。入職当時の精神科病院は入院主体の治療が主流でしたが、今は障がい者の方の社会参加や自立が主体となっています。しかし、現在至るまでに当院もいくつかの“節目”があり、その都度都度にそのスタイルに合った考え方や行動へと切り替えていきました。慣れ親しんだものを新しいものに切り替えることは、特に意識の切り替えは並大抵のものではありませんでした。しかしそれを行っていかなければ社会の動向についていけません。今月は庵尾看護部長より「意識改革」についてのお話です。

「意識改革とは、その人の気持ちや考え方をを変えることをいいます。つまり、個人が持っている認識の枠組みを切り替えることです。しかし、一人一人がどんな認識の枠組みの中で物事を考えているかを推し量ることは簡単にはできません。また、『変わった。変わった。』と口では言うものの、気持ちの部分まで確認することは容易ではありません。

個人の認識の枠組みが見えてくるのは日常の態度や仕事内容、カンファレンスやミーティングで意見を求めた時、上司との面接の場面で見え隠れすることもあります。しかし他人の力だけでは目に見えない意識改革はうまくいくことはありません。“自分が変わらなければ”という意識を持った時に初めて形として見えてくるものだと思います。

つまり意識改革は、個々の外的な力だけではなく、内的な動機によって形成されていくものだと思います。今、病院は変革の時期だと大抵の人は感じています。これを機に、自分自身の意識改革に取り組む必要があるのではないのでしょうか。」といった内容のお話でした。

“意識改革”は他人から言われてどうこうなるようなものではないでしょう。自分自身がその



必要性を感じて初めて芽生えてくるものです。

私は施設管理も請け負ってまして、昨年にはオール電化となり電気使用量の削減に取り組みました。職員の節電意識を高めるためにデマンドシステムの説明やら不用箇所スイッチ OFF、空調の温度設定等試みましたが節電はおろか意識向上にも繋がらず大失敗でした。光熱費などのコストの削減は設備管理においては最重要課題で、いつまでも同じ状況が続けるわけにはいきません。

そこで、職員の意識が変わるのを待っているのではなく、変わってくるように仕向けるために“型にはめる”ことにしました。そう、型枠を整備し、その中での動向でコスト意識を持ってもらう様に作戦変更です。そのためには電気使用量の過去のデータの比較やら、電気設備使用の時間割作成やら、なにかと型枠づくりには準備が必要ですが、これをしていかなければ設備管理をしている意味がありません。

私事も入ってしまい申し訳ございませんでしたが、意識を変えるには本人任せにせず、環境を変えて意識が変わってくるようにするのもアリではないでしょうか。

病院掲示板

現在、和歌山県におけるインフルエンザの流行は1月末から2月初めにかけたの定点当たりの報告数より若干少なくなってきたものの依然猛威を振るっています。

外来患者様はじめ、病院を利用してくださる皆様におきましてはマスク着用のご協力をお願いするとともに、発熱等異常がある場合には遠慮なく申し出てくださるようお願いいたします。

= 院内感染防止対策委員会 =



病院に入ったところすぐにある梅の木です。南部梅林や岩代梅林などももうそろそろ見ごろをおかえる頃ではないでしょうか？

梅林の満開の知らせを聞くと、「もうすぐ春がやってくる」と感じますね。



= 編集後記 =

この寒波は陸地だけでなく海にも影響しているようです。黒潮が紀伊半島より約 50Km 離れているため水温が例年より3~4度低くなっているそうで、季節風の影響でさらに拍車をかけているとのことです。

海の中も寒すぎてお魚さんも動かずじっとしているのに違いありません。そのためか、何度釣りに行ってもな〜んも釣れません。まあ釣れないことには慣れてしまいましたが…。

= うらた =